

V 指標以外の調査結果

1 今後のまちづくりへの希望

今後のまちづくりへの希望を、次の設問により直接的に聞いています。

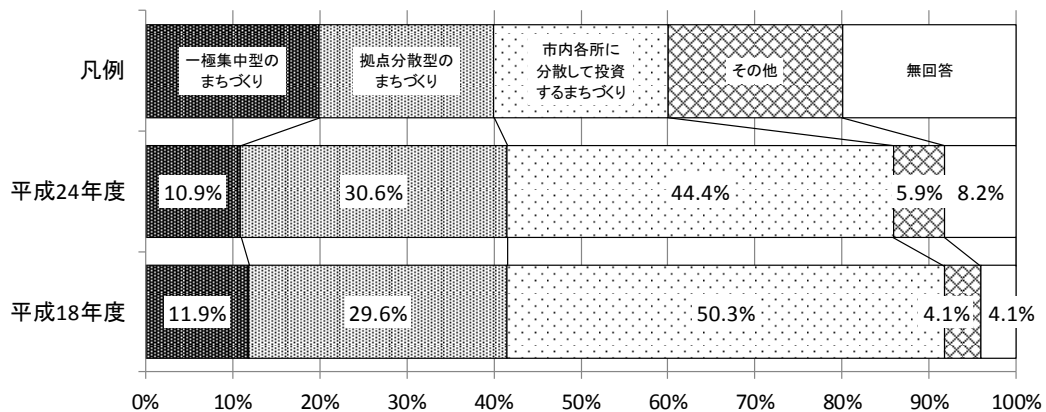
Q21 松戸市は、水戸街道の宿場町として、また舟運交通の要衝として栄えてきました。市制を施行した昭和18年の人口は4万人程度であり、昭和30年代の半ばまでは農業主体のまちとして緩やかな人口の増加傾向をたどってきました。

その後、平成の初めまでは、首都東京の住宅需要の受け皿として、新しい市民が全国各地から移り住み、激しい人口移動と増加を繰り返してきました。今日では、人口の増加も落ち着き、人口約48万人を擁し、市内にJR、私鉄併せて23の駅を持つ全国でも有数の生活都市として成熟期を迎えつつあります。

このような松戸市において、あなたが生活する上で、どのようなまちづくりを望みますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 松戸駅を中心とした一帯に新たな投資を行い、自宅近くでの利便性の向上は望めないが、松戸駅周辺まで行けば、高級品の買い物、専門的な医療や特色ある教育まで大抵のサービスは受けられるような**一極集中型のまちづくり**
- 2 市内の数箇所（たとえば、複数の路線が交差する松戸駅、新松戸駅、八柱駅など）を拠点として、新たな投資を行い、自宅近くでの利便性の向上は望めないが、市内のどこかで、高級品の買い物、専門的な医療や特色ある教育まで大抵のサービスは受けられるような**拠点分散型のまちづくり**
- 3 東京への交通の便が良いという立地条件を生かし、高級品の買い物、専門的な医療機関や特色ある教育機関などは都心に行けば済むので、日用品の買い物や介護や育児などの日常生活に必要なサービスが、最寄り駅の近隣や通勤・通学経路などのなるべく自宅から近いところにおいて入手できるように**市内各所に分散して投資するまちづくり**
- 4 その他
〔 〕

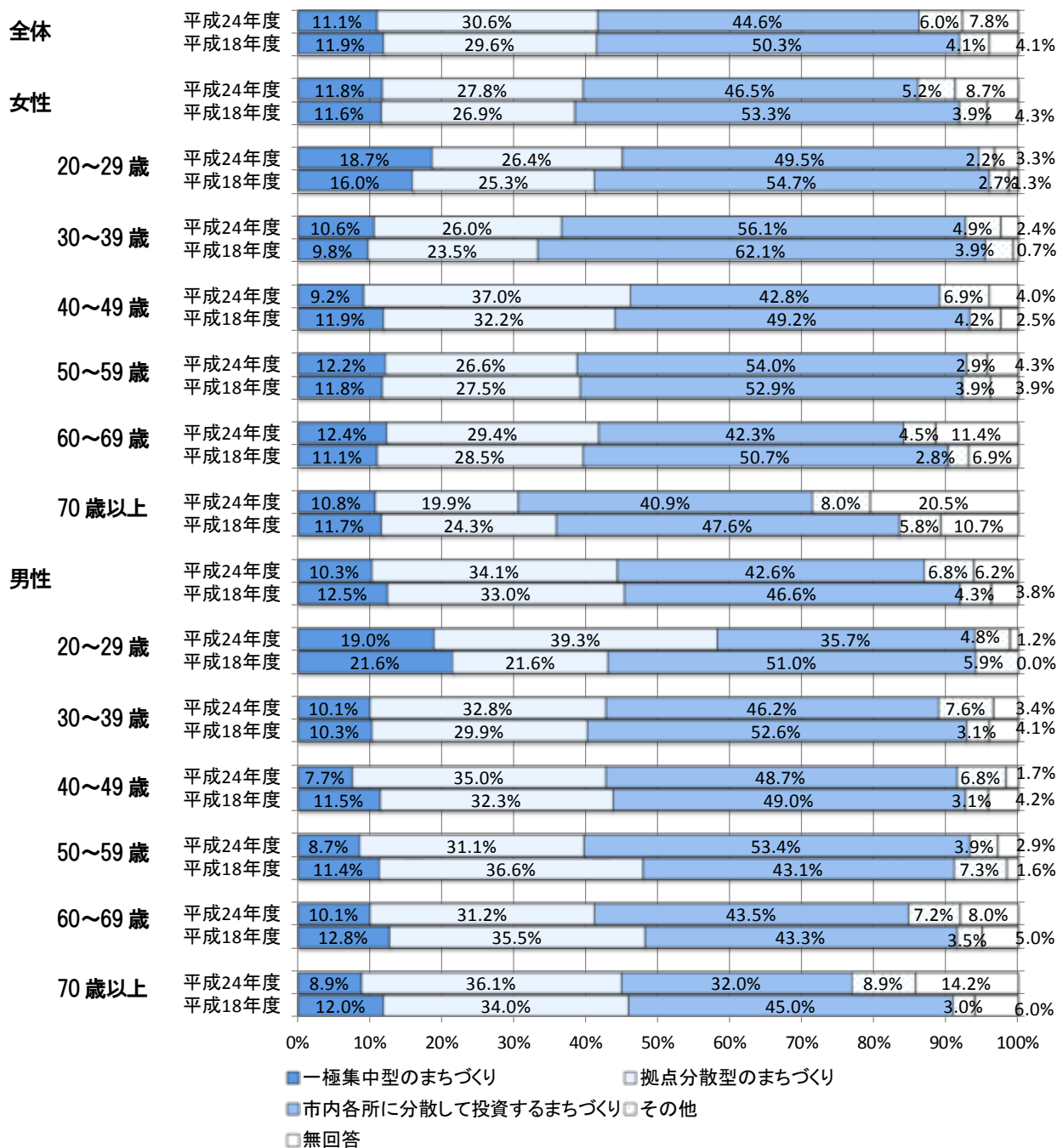
今後のまちづくりとして、最も希望が多いのは“市内各所に分散して投資するまちづくり”で44.4%となっています。次いで、“拠点分散型のまちづくり”が30.6%、“一極集中型のまちづくり”が10.9%と続いています。平成18年度調査に比べ、“市内各所に分散して投資するまちづくり”は50.3%から44.4%と減少しています。



性別で見ると、今後のまちづくりとして最も希望が多いのは“市内各所に分散して投資するまちづくり”が女性では46.5%、男性では42.6%と男女とも4割以上を占めています

性・年代別にみると、男女とも、20歳代で“一極集中型のまちづくり”が他の年代に比べ多くなっています。

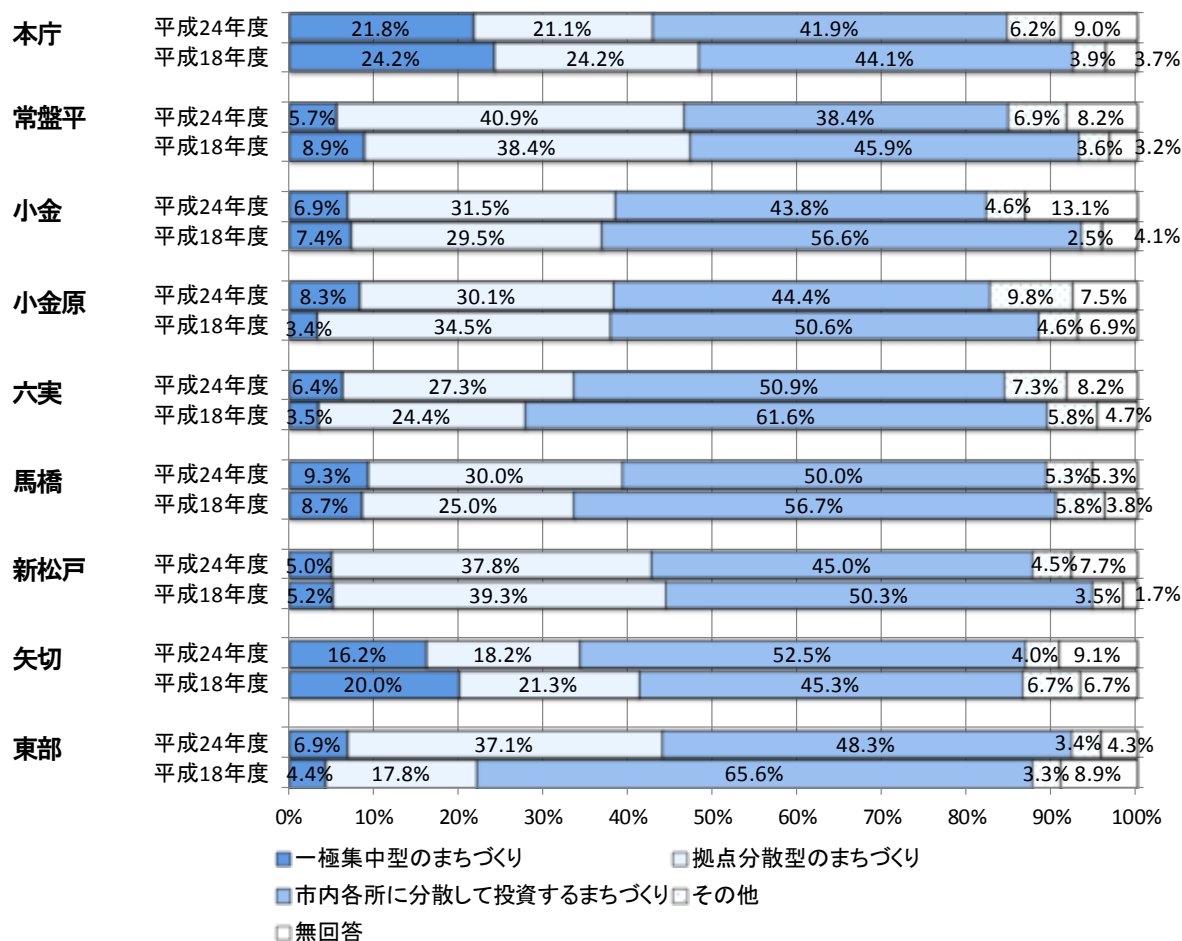
【希望のまちづくり×性別、年代】



地域別にみると、本庁地区、矢切地区では“一極集中型のまちづくり”を希望する人の割合が、それぞれ21.8%、16.2%と他の地区に比べ多くなっています。

平成18年度調査に比べ、東部地区では“市内各所に分散して投資するまちづくり”が65.6%から48.3%と17.3ポイント減っています。

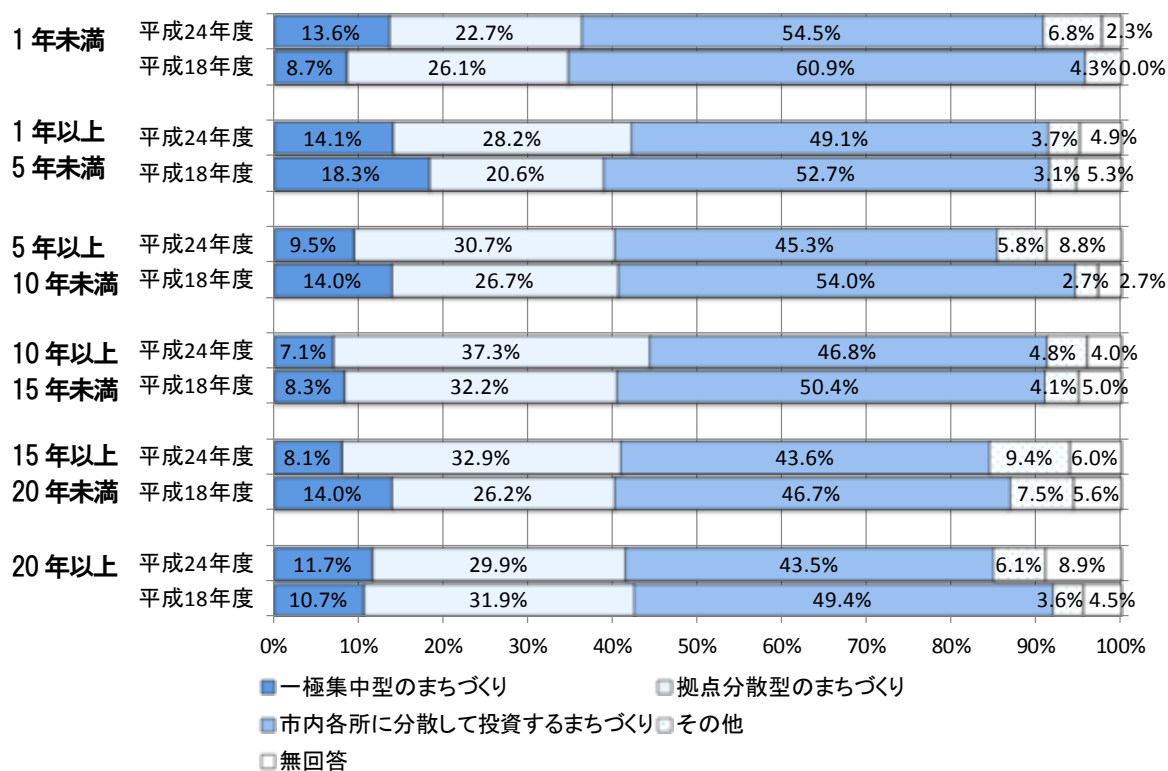
【希望のまちづくり×地域】



在住年数別でみると、1年未満では“市内各所に分散して投資するまちづくり”が54.5%と5割以上を占めています。5年以上10年未満、10年以上15年未満、15年以上20年未満では“拠点分散型のまちづくり”が3割以上を占めています。

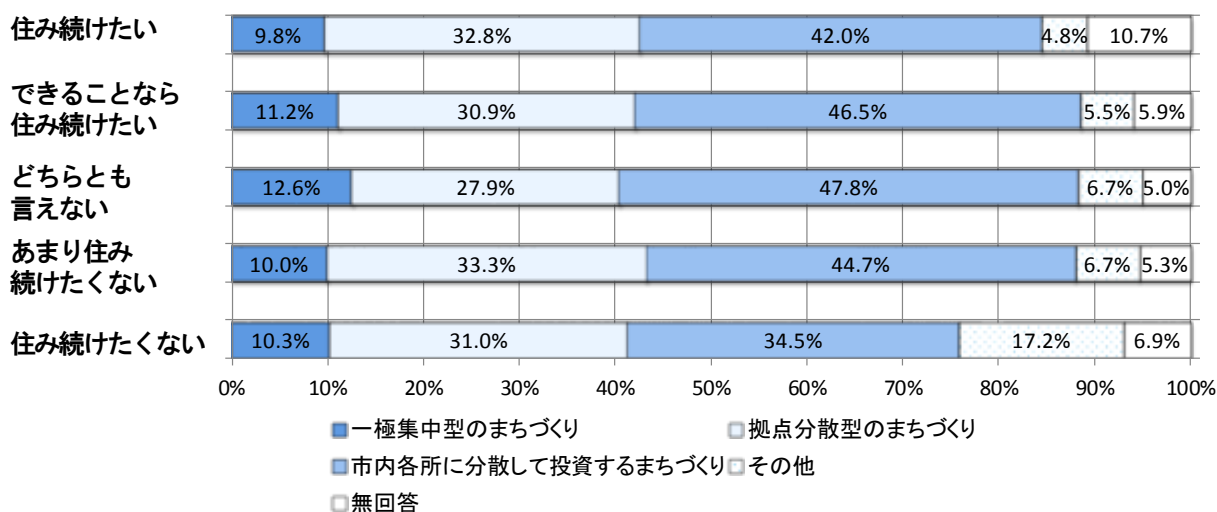
平成18年度調査に比べ、全ての在住年数の層で、“市内各所に分散して投資するまちづくり”が減っています。

【希望のまちづくり×在住年数】



定住意向別にみると、住み続けたくない層では“市内各所に分散して投資するまちづくり”が34.5%と他の層と比べ低くなっています。

【希望のまちづくり×定住意向】



2 今後のまちのイメージづくりへの希望

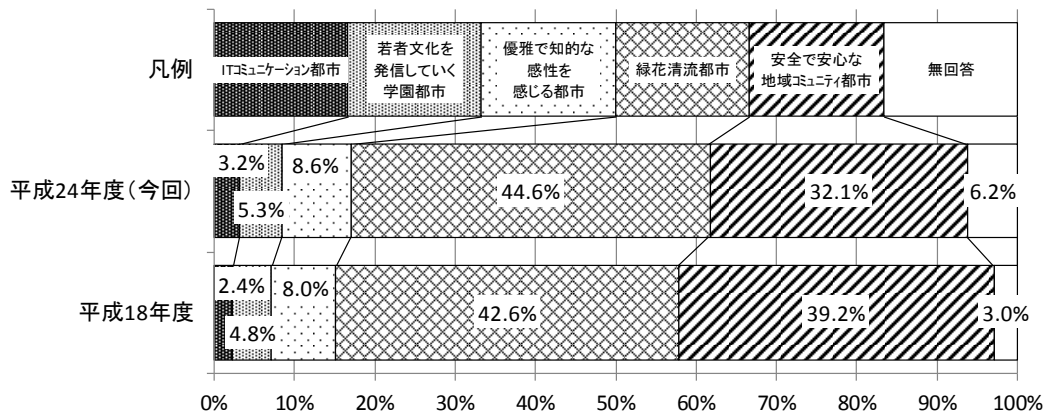
今後のまちのイメージづくりへの希望を、次の設問により直接的に聞いています。

Q22 松戸市は、都心から約20kmの位置にあり、本市の西部は江戸川を境に、東京都葛飾区などと接しています。三鷹市や川崎市とほぼ同じ距離にあり、町田市や横浜市よりは、約10km、横須賀市よりは、約30km 都心に近い距離にあります。

首都圏における立地条件は大変良いわけですが、松戸市に暮らすというブランドイメージとして、どのようなまちのイメージづくりを望みますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

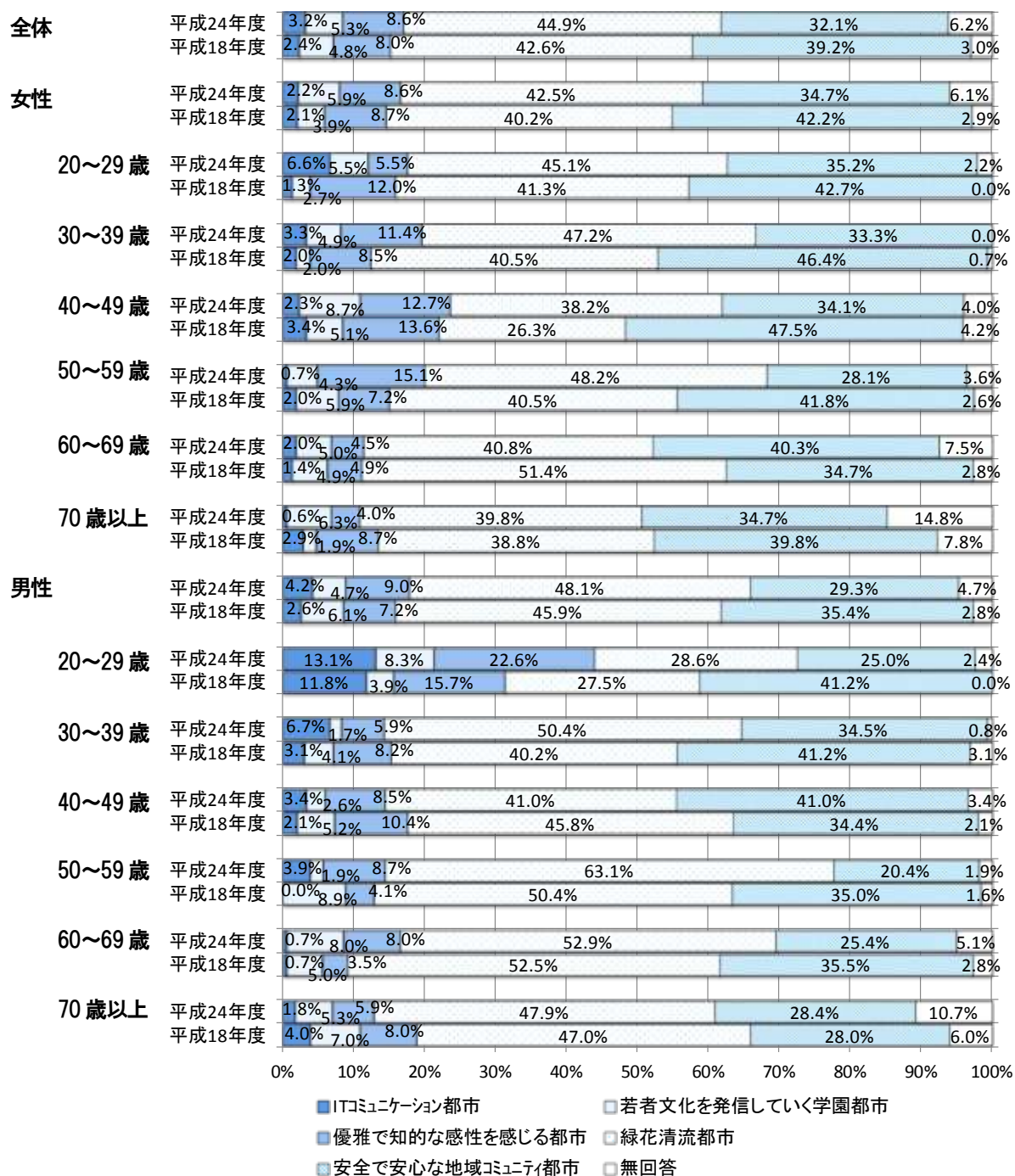
- 1 ITなどの最先端技術を極力利用し、東京のベッドタウンとして利便性をあくまで追求し、外出しなくても、情報や物が簡単に手に入る**ITコミュニケーション都市**
- 2 市内にある4つの大学（千葉大園芸学部、日大歯学部、聖徳大学、流通経済大学）との連携を深め、**若者文化を発信していく学園都市**
- 3 大手百貨店や高級ブランド店が並び、ショッピングなどが楽しめる**優雅で知的な感性を感じる都市**
- 4 新たな開発よりも、自然や緑、歴史や文化など松戸がそもそも持っている良さを活かした**緑花清流都市**
- 5 近隣に住んでいる人の顔がわかり、知らない人や子どもにも気軽に声かけられる**安全で安心な地域コミュニティ都市**

今後のまちのイメージづくりへの希望は、“緑花清流都市”が44.6%と最も多く、次いで“安全で安心な地域コミュニティ都市”が32.1%と、前回調査と同様の傾向となっています。



性別でみると、男性よりも女性の方が“安全で安心な地域コミュニティ都市”の割合が多くなっています。性・年代別にみると、女性では50歳代で“優雅で知的な感性を感じる都市”が15.1%と他の年代に比べ割合が多くなっています。男性では20歳代で“ITコミュニケーション都市”が13.1%、“優雅で知的な感性を感じる都市”が22.6%、50歳代で“緑花清流都市”が63.1%と他の年代に比べ割合が多くなっています。

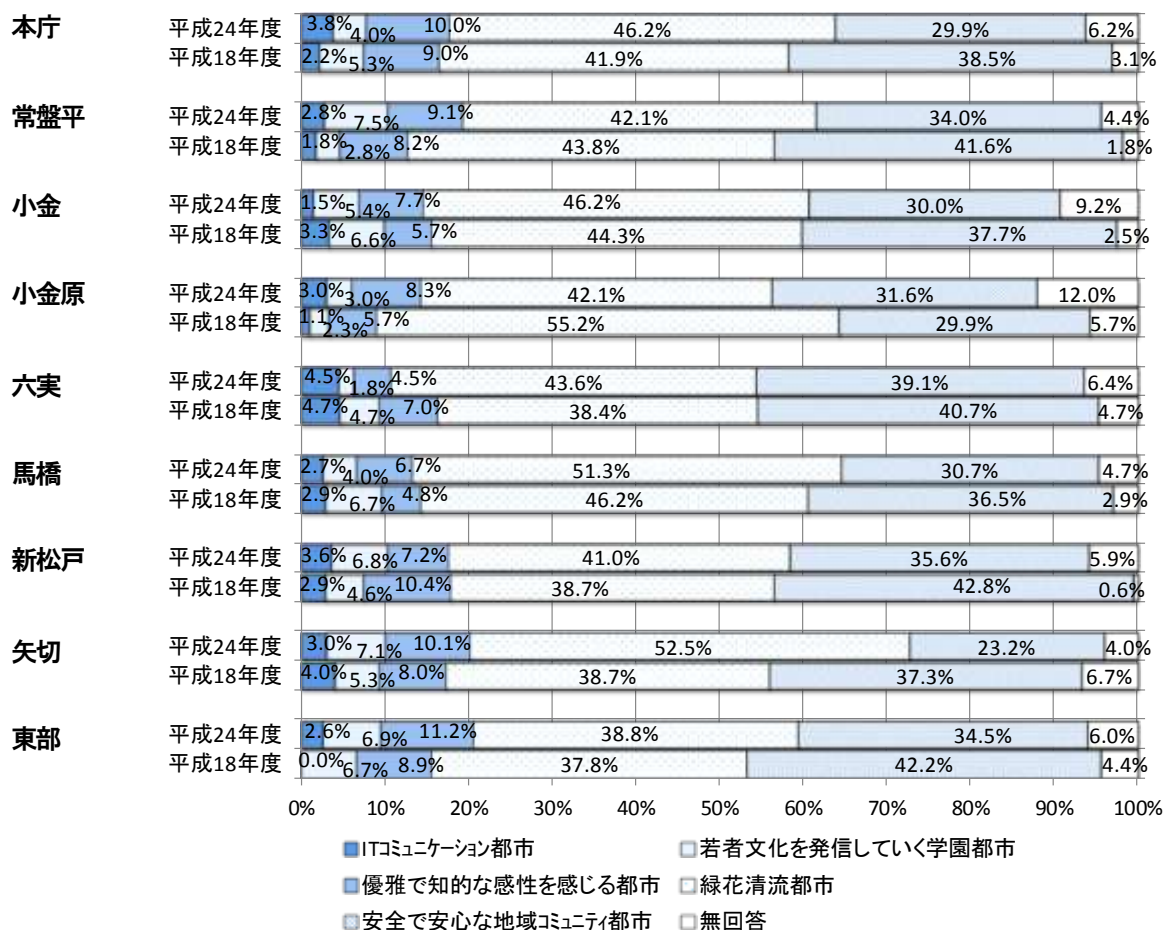
【まちのイメージづくり×性別、年代】



地区別にみると、“優雅で知的な感性を感じる都市”が本庁地区、矢切地区、東部地区でそれぞれ 10.0%、10.1%、11.2%と1割を超えています。馬橋地区、矢切地区では“緑花清流都市”がそれぞれ 51.3%、52.5%と5割を超えています。

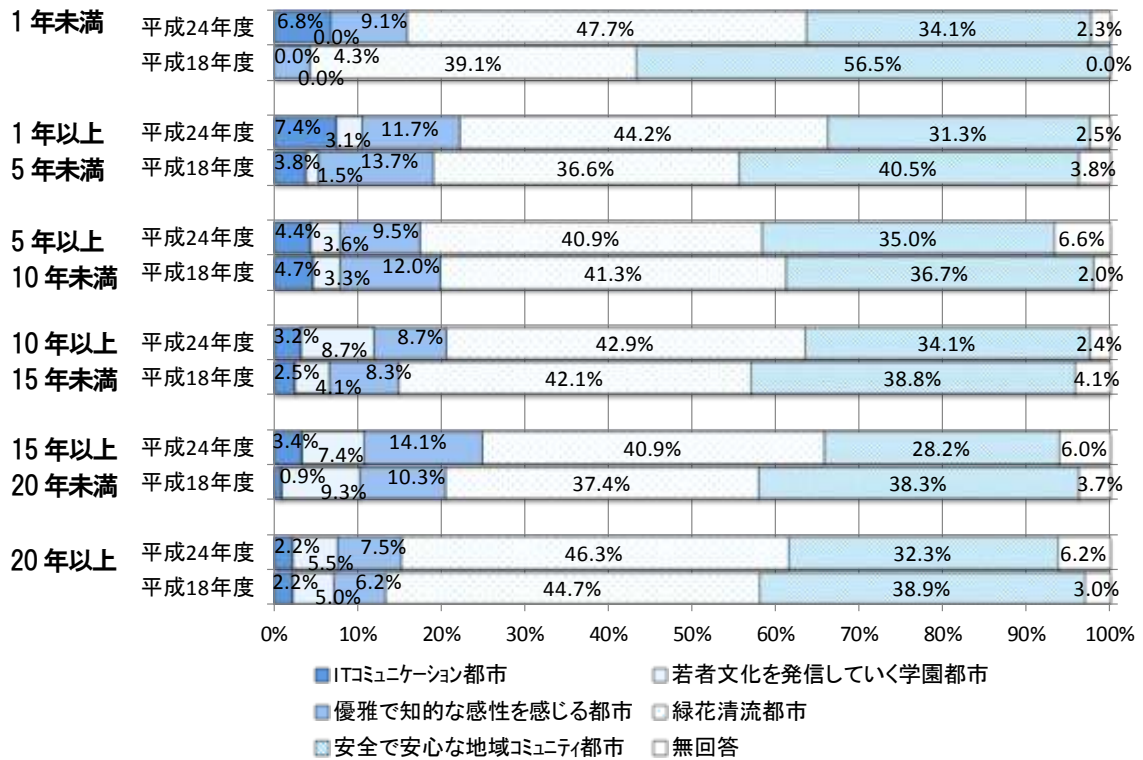
矢切地区では平成 18 年度調査に比べ、“緑花清流都市”が 38.7%から 52.5%と 13.8 ポイント増えています。

【まちのイメージづくり×地域】



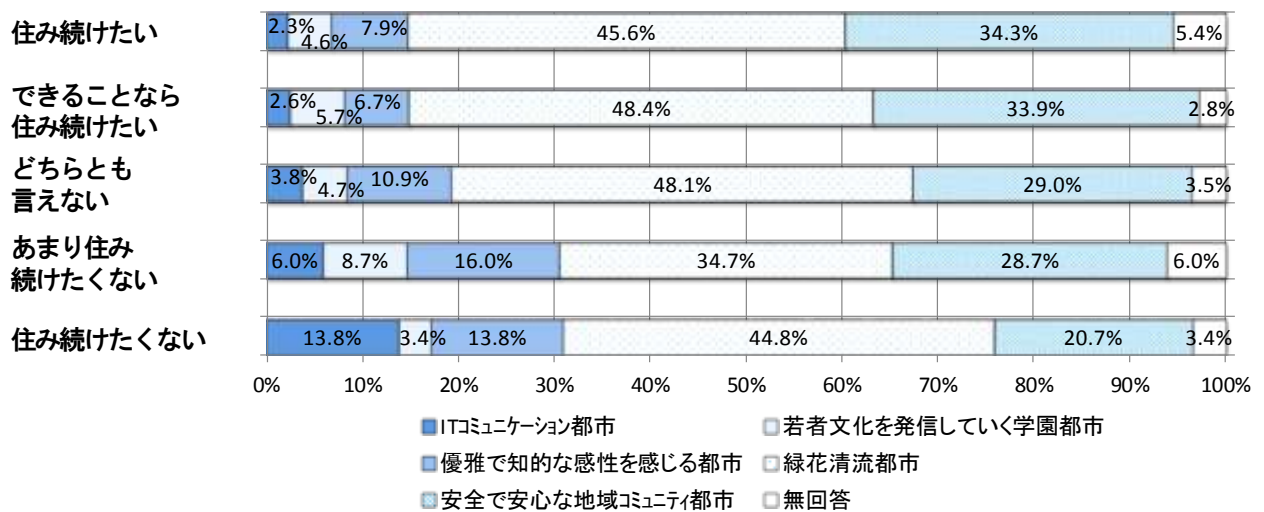
在住年数別でみると、年数にかかわらず“緑花清流都市”が最も高く、次いで“安全で安心な地域コミュニティ都市”が高くなっています。

【まちのイメージづくり×在住年数】



定住意向別にみると、定住意向が低い層ほど“IT コミュニケーション都市”を望む割合が高く、定住意向が高い層ほど“安全で安心な地域コミュニティ都市”を望む割合が高くなっています。

【まちのイメージづくり×定住意向】



3 重点的に投資すべき都市基盤

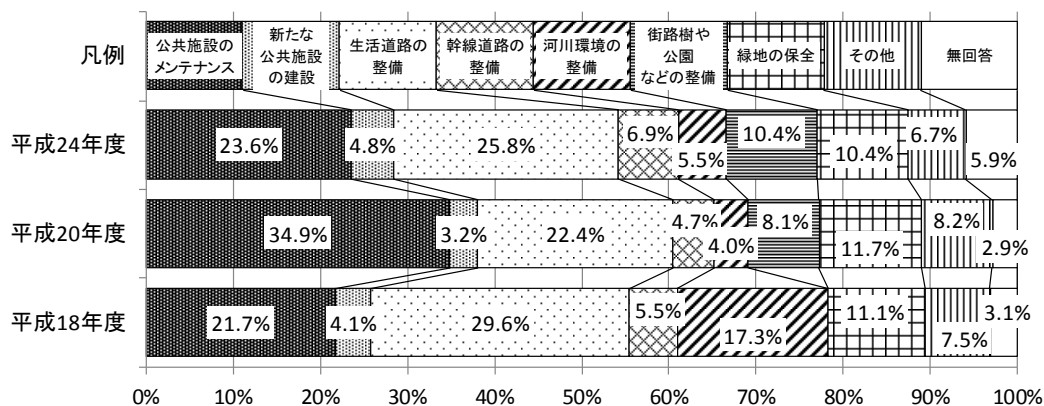
重点的に投資すべき都市基盤を、次の設問により直接的に聞いています。

Q23 少子高齢化が進み、社会保障関係に必要な経費が年々増えており、それ以外に活用できる経費は、限られてきています。

今後の松戸市の都市基盤について、限られた財源の中で、どのようなところに重点的に投資すべきだと思いますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

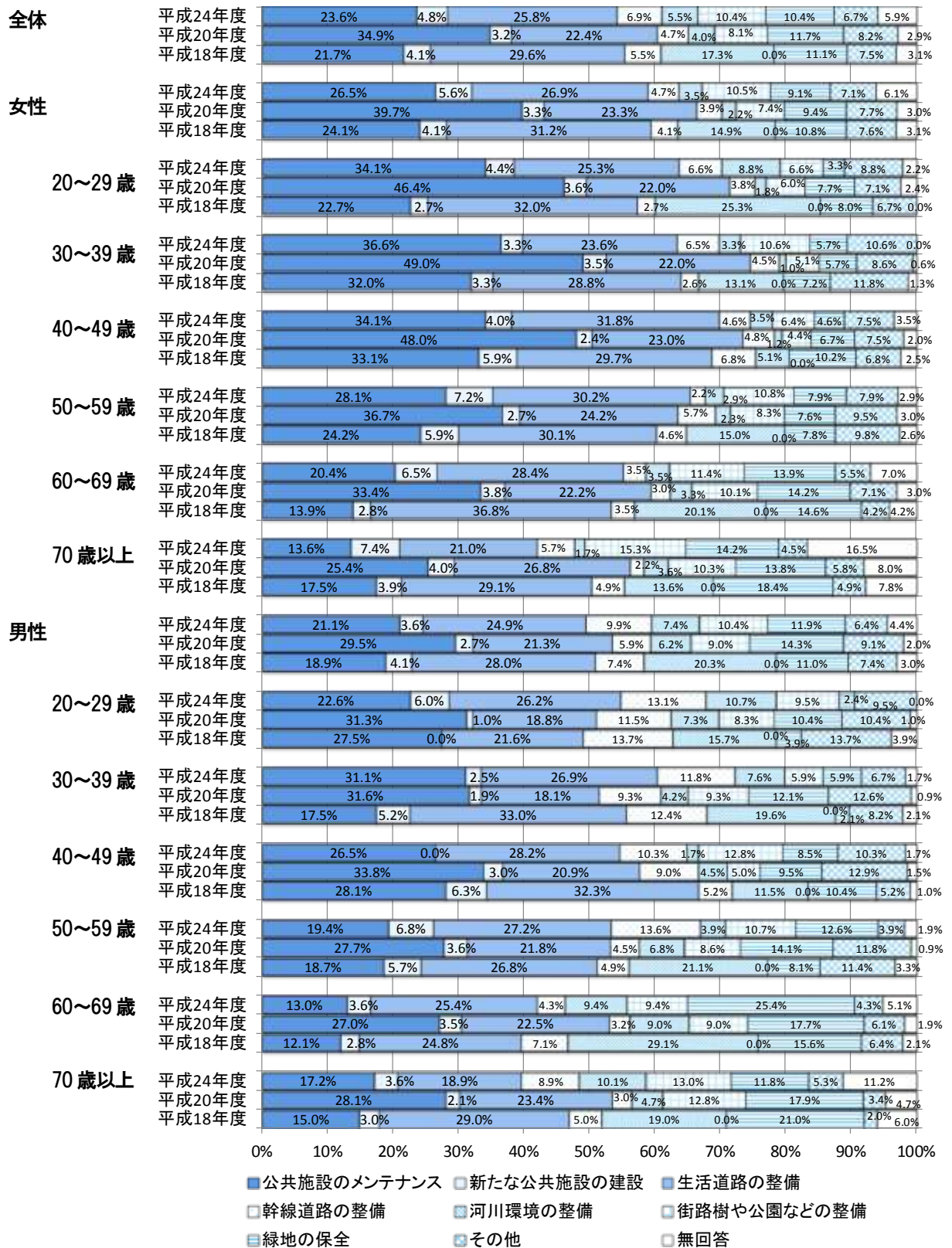
- 1 学校、市民センター、図書館等の公共施設の耐震などを含めたメンテナンス
 - 2 新たな公共施設の建設（例：生涯学習会館、音楽ホールなど）
 - 3 日常、通勤・通学・買い物などに行くときに利用する生活道路の整備
 - 4 車でスムーズに移動するための幹線道路の整備
 - 5 水と親しめる河川環境の整備
 - 6 街路樹や公園などの整備
 - 7 既存の樹林地など緑地の保全
 - 8 その他
- ()

重点的に投資すべき都市基盤では、“生活道路の整備”が最も高く25.8%、次いで“公共施設のメンテナンス”が23.6%となっています。平成20年度調査では最も高かった、“公共施設のメンテナンス”は34.9%から23.6%と11.3ポイント減少し、“生活道路の整備”は22.4%から25.8%と3.4ポイント増え逆転しました。



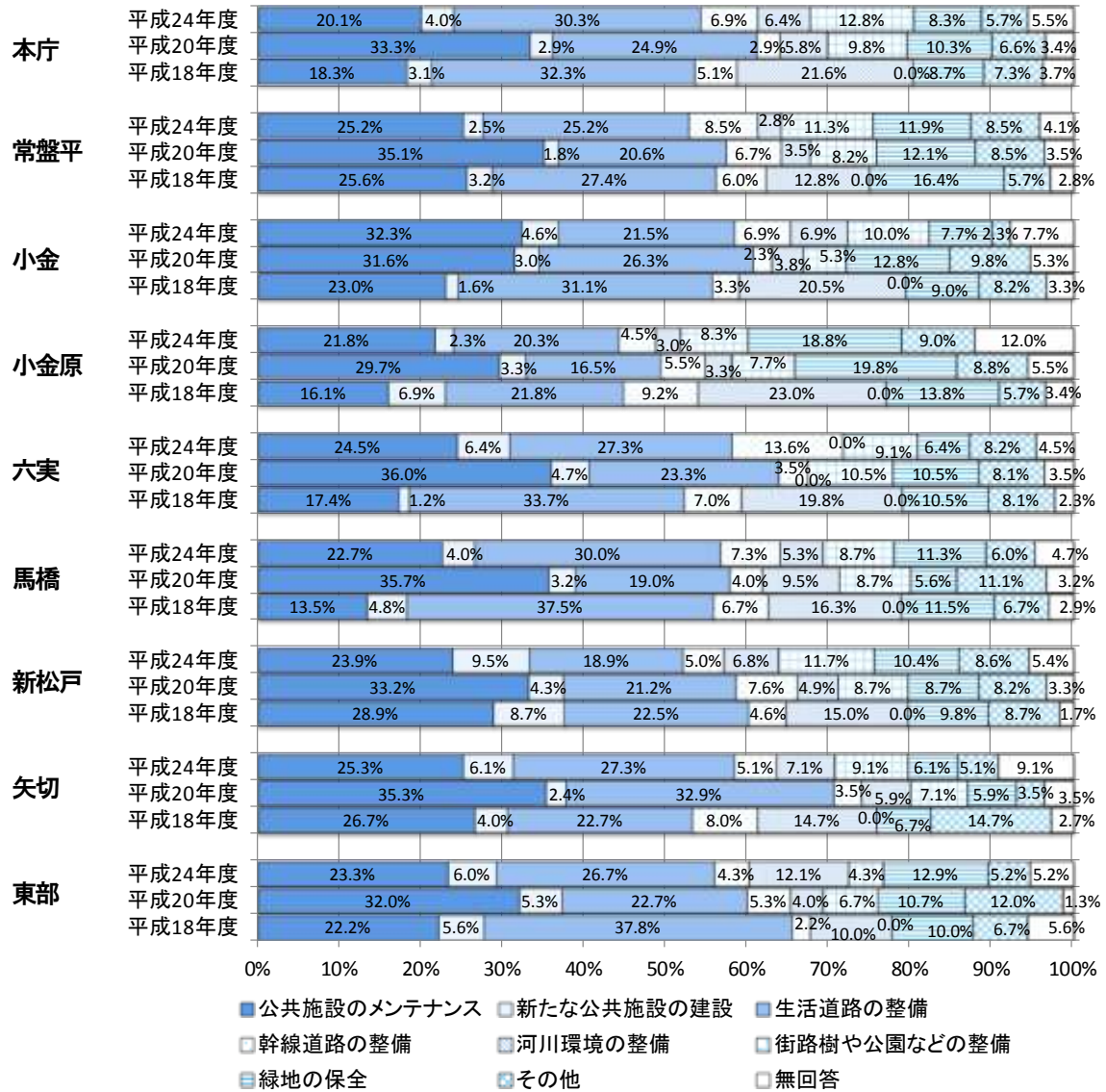
性別で見ると、男性に比べ女性の方が“生活道路の整備”、“公共施設のメンテナンス”を望む割合が多くなっています。性・年代別にみると、“生活道路の整備”を望む割合は、男女とも70歳以上以外の層で平成20年度調査より増加しています。

【重点的に投資すべき都市基盤×性別、年代】



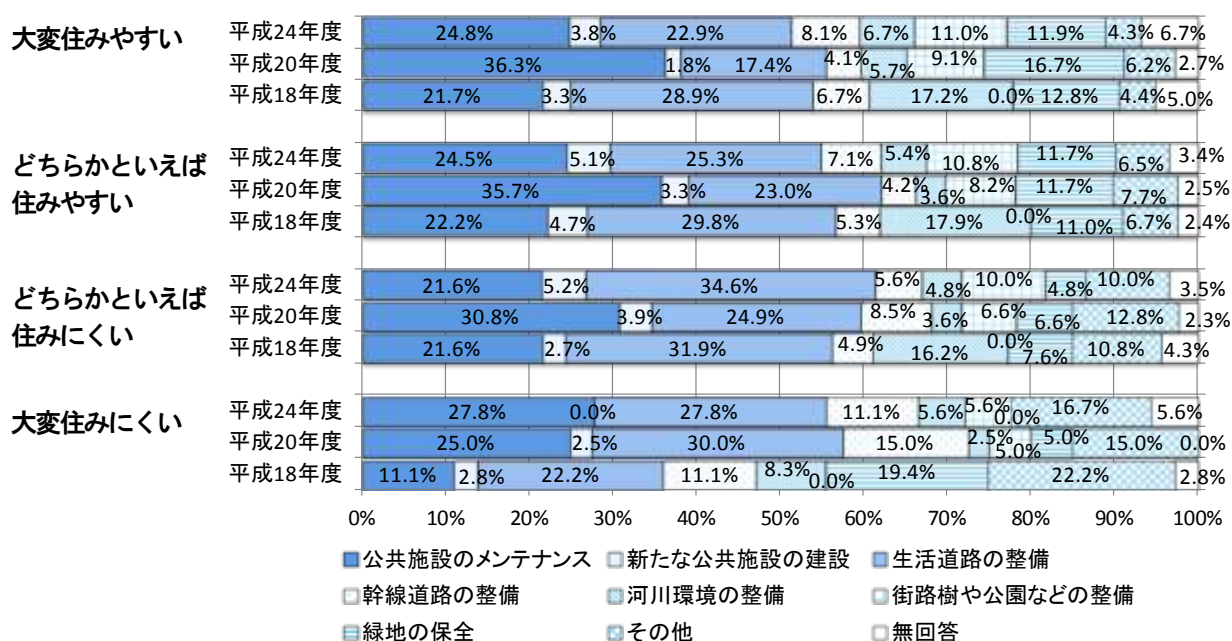
地区別にみると、本庁地区、馬橋地区では“生活道路の整備”を望む割合がそれぞれ 30.3%、30.0%と約 3 割と なっています。小金地区では“公共施設のメンテナンス”を望む割合が 32.3%と他の地区に比べ多くなっています。

【重点的に投資すべき都市基盤×地域】



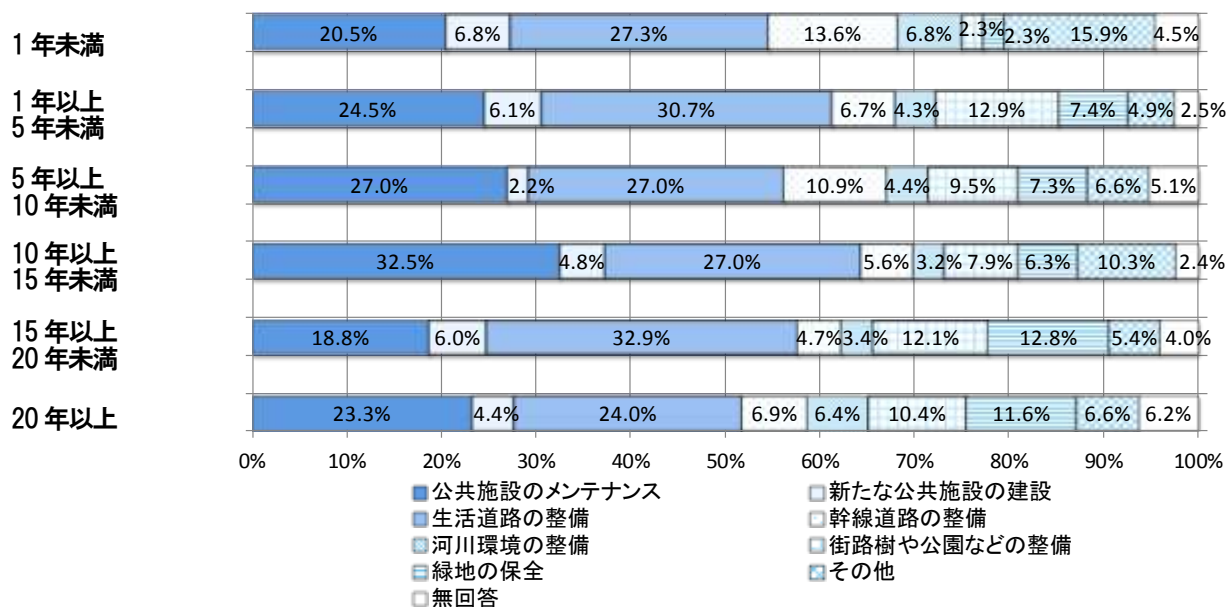
住みやすさ別にみると、どちらかといえば住みにくいと回答した人で“生活道路の整備”が34.6%と3割以上を占め、他に比べ割合が高くなっています。

【重点的に投資すべき都市基盤×住みやすさ】



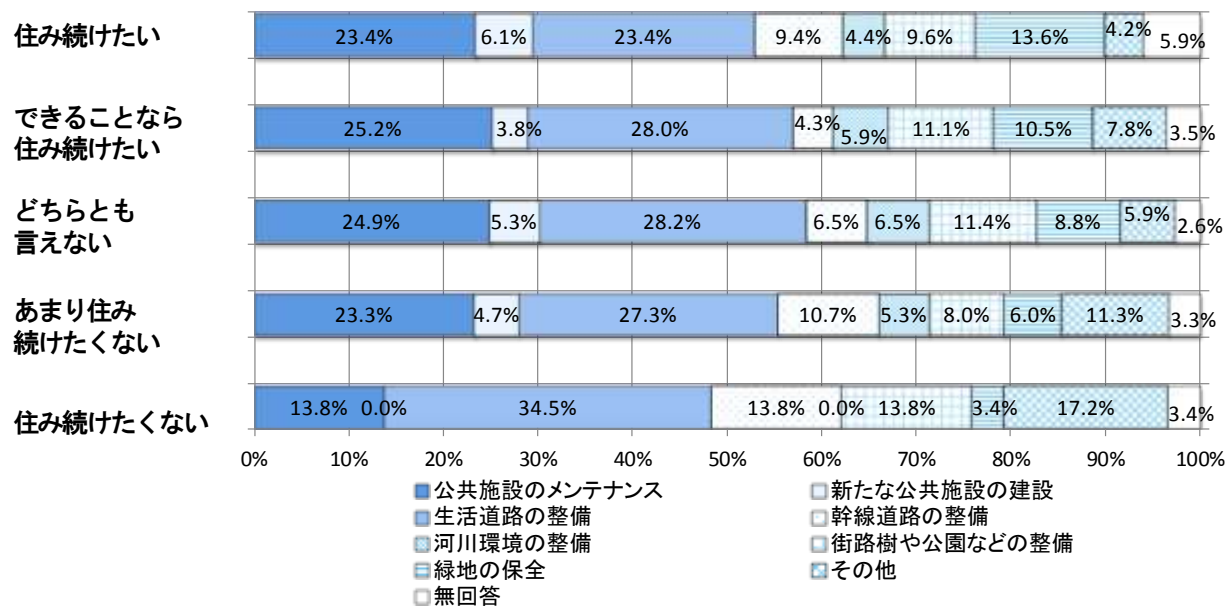
在住年数別にみると、15年以上20年未満では“公共施設のメンテナンス”が他に比べ、低くなっています。

【重点的に投資すべき都市基盤×在住年数】



定住意向別にみると、住み続けたくない層では“生活道路の整備”を希望する人が34.5%と3割以上となり、他に比べ割合が多くなっています。

【重点的に投資すべき都市基盤×定住意向】



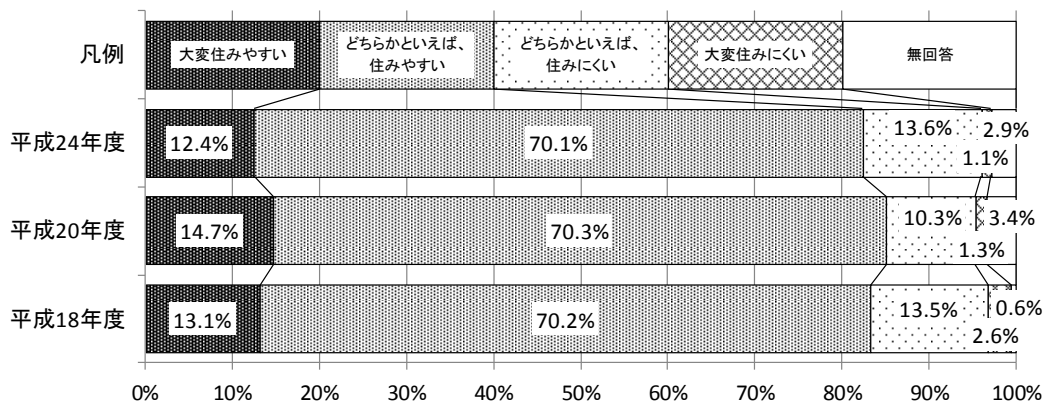
4 住みやすさ

住みやすさについて、次の設問により直接的に聞いています。

Q24 あなたにとって、松戸市は住みやすいですか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

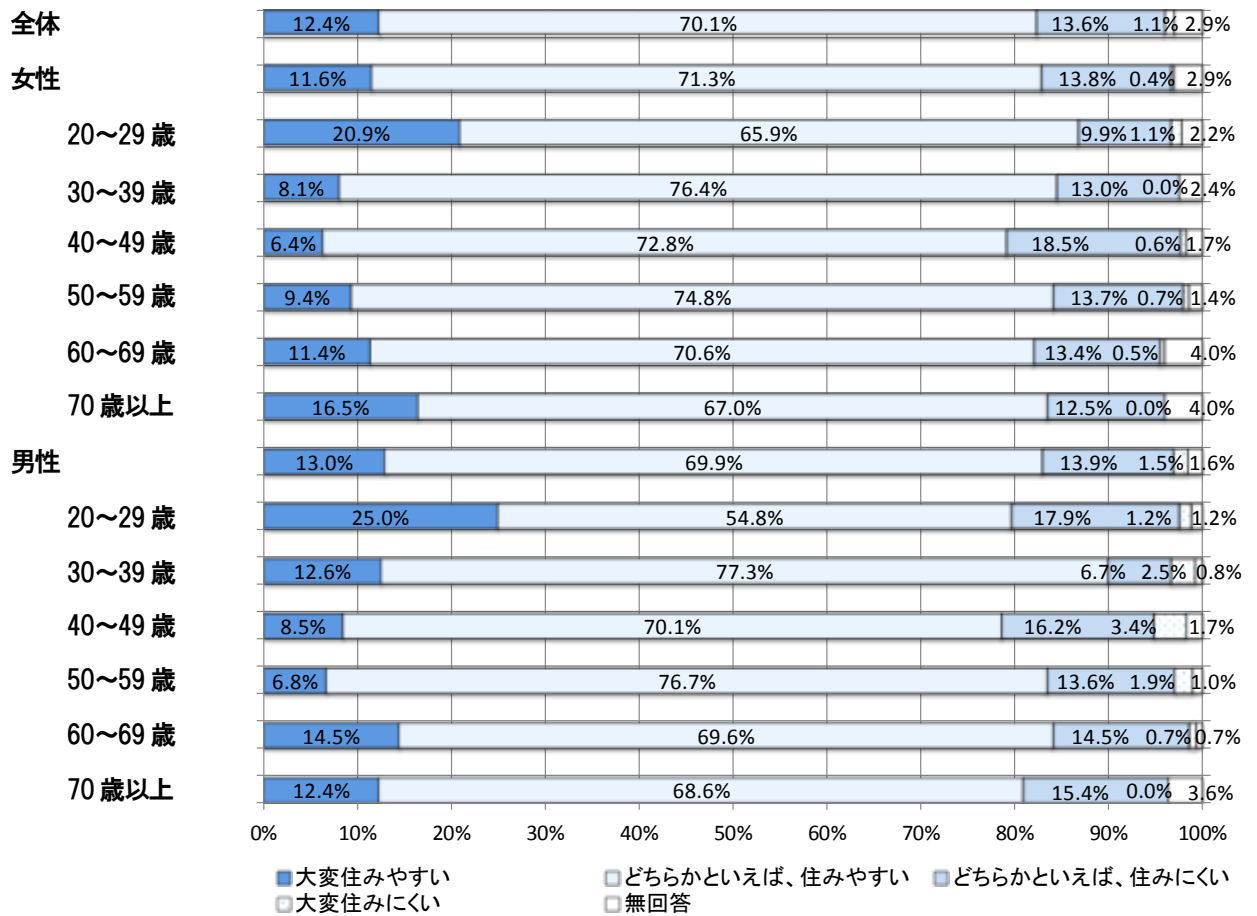
- 1 大変住みやすい
- 2 どちらかといえば、住みやすい
- 3 どちらかといえば、住みにくい
- 4 大変住みにくい

住みやすさについては“どちらかといえば、住みやすい”が最も多く70.1%と7割を超えています。“大変住みやすい”と“どちらかといえば、住みやすい”の割合を合計すると82.5%と8割以上の人が住みやすいと回答しています。経年変化をみると、“大変住みにくい”は徐々に減少してきています。



性・年代別にみると、男女とも20歳代では“大変住みやすい”と回答した人が2割を超えています。

【住みやすさ×性別、年代】



地域別にみると、小金原地区では“大変住みやすい”が 15.8%と他の地区に比べ多くなっています。小金地区、東部地区では“どちらかといえば、住みにくい”がそれぞれ 19.2%、19.0%と他の地区に比べ多くなっています。

【住みやすさ×地域】

